

令和 2 年度 前期学校評価アンケート結果分析について

前期「学校評価アンケート」にご協力をいただきありがとうございました。

前期の学校評価について、保護者や教職員、児童生徒のアンケート結果を踏まえて分析をしました。紙面では、「概要」と「令和元年度後期との比較」「考察」について掲載しています。各項目や集計結果につきましては、本校ホームページにて掲載いたしますので、別途ご覧ください。

Ⅰ 概要

教職員

37 ある項目のうち、肯定的回答（「出来ている」と「だいたい出来ている」）が 90%を超えているのが 34 項目、80%を超えているのが 1 項目、70%台が 2 項目ありました。否定的回答（「あまり出来ていない」と「出来ていない」）が 10%以上の項目は、＜2-2＞＜6-3＞＜8-1＞の 3 項目でした。

保護者

27 ある項目のうち、肯定的回答が 90%を超えているのが 11 項目、80%を超えているのが 8 項目、70%を超えているのが 5 項目となり、60%台が 1 項目、50%台が 2 項目でした。

肯定的回答が 60%台だった項目は＜3-2＞、50%台だった項目は、＜6-3＞＜7-2＞でした。27 項目の中、否定的回答が 10%以上だった項目は、＜1-1＞＜1-2＞＜1-3＞＜1-10＞＜3-2＞＜3-3＞＜6-3＞＜7-2＞の 8 項目でした。

児童生徒

18 ある項目のうち、肯定的回答が 90%を超えているのが 4 項目、80%を超えているのが 10 項目、70%台が 2 項目、60%台が 2 項目でした。

肯定的回答が 60%台の項目は、＜5-1＞＜5-2＞で、この項目は、「わからない」の回答が 20.4%ありました。否定的回答が 10%以上だった項目は、＜1-2＞＜2-1＞＜2-2＞＜2-3＞＜3-2＞＜5-1＞＜5-2＞＜7-1＞の 8 項目でした。

2 令和元年度後期との比較

教職員

前期項目において、肯定的回答が 70%台の 2 項目以外は、肯定的回答が 80%を超えていました。否定的回答が 10%以上は 3 項目にあり、それについて、令和元年度後期の結果と比較してみました。

「2-2 教材・教具や備品は整理整頓されている」（元年度後期 17.1%↘10.6%）

「6-3 地域資源を活用した学習を通して、地域と連携し、理解し合う取組を進めている」（元年度後期 5.6%↗25.5%）

「8-1 総合支援学校教育研究会や各種研修会に積極的に参加している」（元年度後期 26.1%↘25.2%）

保護者

否定的回答が 10%以上だった 8 項目について、令和元年度後期の結果と比較してみました。

「1-1 子どもは、目標を持って学習に取り組んでいる」（元年度後期 8.2%↗11.5%）

「1-2 子どもは、規則正しい生活を送っている」（元年度後期 13.4%↘13.3%）

「1-3 子どもは、自分の思いを伝える力を身につけてきている」（元年度後期 20.8%↗21.9%）

- 「1-10 保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している」
(元年度後期 26.0% ➡ 24.8%)
- 「3-2 子どもは、学校のマナーを守り、あいさつや言葉遣いなど、礼儀正しい学校生活を送っている」
(13.9%)
- 「3-2 子どもは、学校のルールやマナーを守り、礼儀正しく学校生活を送っている」
(元年度後期 5.2%)
- 「3-3 子どもは、友だちに対して思いやりを持ち、お互いに協力している」
(元年度後期 5.2% ➡ 11.8%)
- 「6-3 子どもは、学習や行事を通して地域のいろいろな人と関わっている」
(元年度後期 15.6% ➡ 34.7%)
- 「7-2 学校は、休校期間中児童生徒の家庭学習の支援を行なった」 (前期 29.4%)

児童生徒

否定的回答が10%以上だった8項目と、「わからない」という回答の割合が高かった3項目について、令和元年度後期の結果と比較してみました。

- 「1-2 規則正しい生活を送っている」の否定的回答 (元年度後期 4.8% ➡ 12.7%)
- 「2-1 校内や教室の掃除をしている」の否定的回答 (元年度後期 12.9% ➡ 16.4%)
- 「2-2 学習で使うものや自分の荷物を決められた場所に片づけている」
(元年度後期 6.5% ➡ 11.1%)
- 「2-3 手洗いをしている」 (元年度後期 12.9% ➡ 12.7%)
- 「3-2 あいさつやていねいな言葉づかいができています」 (元年度後期 8.3% ➡ 10.9%)
- 「5-1 卒業後の進路や生活について学習にとりくんだ」
否定的回答 (元年度後期 3.3% ➡ 13.0%)
「わからない」の回答 (元年度後期 8.4% ➡ 20.4%)
- 「5-2 卒業後の進路や生活について、いろいろな人からアドバイスを聞くことがあった」
否定的回答 (元年度後期 8.4% ➡ 18.5%)
「わからない」の回答 (元年度後期 10.0% ➡ 20.4%)
- 「6-1 交流や地域の中で、楽しく学習することができる」否定的回答 (7.4%)
「わからない」の回答 (16.7%)
- 「7-1 休校期間中も学習に取り組むことができた」否定的回答 (16.4%)

3 考察

(1) 教職員の結果から

前期の教職員へのアンケート調査結果から、教職員は今年度の学校経営の各重点項目について、概ね「できている」という結果となりました。

昨年度に否定的回答が多かった「2-2 教材・教具や備品は整理整頓されている」については改善されてきています。校内や教室の清掃、美化の取組に対する肯定的な回答が94.2%あり、コロナの感染拡大予防として、教職員が日々の清掃や美化を行っていることが伺えます。その結果、整理・整頓にも取り組み、否定的な回答が減少したと考えます。

「6-3 地域資源を活用した学習を通して、地域と連携し、理解し合う取組を進めている」については、昨年度より否定的な回答が増えました。今年度は9月まで校外での学習が行えなかった結果ではないかと考えます。今後は、社会情勢を鑑みつつ、感染予防に十分努めながら、少しずつ活動を広げられるよう検討をしていきます。

「8-1 総合支援学校教育研究会や各種研修会に積極的に参加している」については、昨年度よりわずかに改善しましたが肯定的な回答が低い状況です。教員が全員参加している総合支援学校教育研究会の学習会は様々な形態で行われ、教員は自主的に学んでいます。また、校内でも教職員のニーズに合わせた学習会が開催され、教員は自主的に学んでいるところです。「積極的に参

加」という意識は薄いかもしれませんが、「専門性を高めたい」「知識を増やしたい」という教員の声はたくさん聞こえています。今年度より、リモートやZOOMを活用して研修を受けられる機会が増え、研修場所への移動時間を削減できるようになってきました。研修を受ける方の環境を整えることが課題となりますが、働き方改革の視点からも学びやすい環境になってきたと言えます。これからも、研修の機会を生かして、教員の専門性を高められるよう働きかけていきたいと考えます。

昨年度後期に否定的回答が18.8%あった「7-2 会議の精選と業務の効率化」については、今年度前期は9.7%に減少しました。コロナ禍での在宅勤務等での対応によって減少したものと思われます。しかし引き続き、各部署からの意見を吸い上げつつ、業務の効率化や削減、会議の厳選や見直し等について、検討や実施に取り組んでいきたいと思います。

（２）保護者の結果から

保護者へのアンケート調査の結果から、学校経営重点の各項目についてはおおよそ達成できているという思いを聞くことができました。しかし、否定的回答が10%以上だった項目は8項目あり、その内、肯定的回答が70%台以下の6項目については、改善の取組が必要であると考えます。

「1-3 自分の思いを伝える力を身につける」については、昨年度から引き続き改善課題の項目であります。思いを伝える力は、児童生徒一人一人異なり、その姿は様々です。そのため、学校でできた姿（「どんな時」に「どのような姿」で、自分の思いを伝えることができたのか）を保護者と共有することが大切なことだと言えます。学校では、担任との関わりや学級の取組だけでなく、学年や学部、他の教職員や外部専門家等を通して、「自分の思いを伝える力」を培っているところです。これからも、児童生徒が「どのようにして伝えられたか」等を含めて、「できる姿」を保護者と共有し、学校でできたことを、家庭や地域でも広げ伸ばしていけるように進めていきたいと考えます。

「1-10 保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している」について、昨年度から引き続き、肯定的な回答が低い結果となりました。今年度は7月までの授業参観や懇談会、学習会を中止し、外部からの来校者を制限させていただきました。このことにより肯定的な回答が低く表れたとも言えます。しかし、7月以降の参観や懇談等の再開に於いても、参加しにくいご家庭があったことも考えられます。少しでも学習の様子や児童生徒の学習に取組む姿を見ていただけるよう、参観等のご案内を早めに配布してお知らせをしてみたいと思います。

「3-2 子どもは、学校のマナーを守り、あいさつや言葉遣いなど、礼儀正しい学校生活を送っている」「3-3 子どもは、友だちに対して思いやりを持ち、お互いに協力している」についての取組は、目標や評価を個別の包括支援プランを基に、日々の学校生活や学習を通して実践しているところです。あいさつや言葉遣いなどは、教職員が児童生徒のモデルとなるように過ごすことが大切です。また、児童生徒は学校生活の中で、友だちと触れ合い、互いに関わり合いながら過ごしています。自分の思いを伝えることや相手の思いを知ること、友だちに対して自分ができること等を、日々の生活や学習を通して学んでいます。学校での姿や取組内容等を、今後一層保護者に伝えられるようにし、できる姿の共有をめざすことが大切であると考えています。

「6-3 子どもは、学習や行事を通して地域のいろいろな人と関わっている」については、今期は大変難しかったといえます。

「7-2 学校は、休校期間中児童生徒の家庭学習の支援を行なった」については、否定的な回答が29.4%という結果となりました。アンケートの結果は、真摯に受け止めています。教員には夏季休業中から、児童生徒が家庭でできる学習課題を考え、教材準備をするように伝えています。今後家庭での学習が必要となった時に、児童生徒一人一人に応じた対応が出来るよう、準備を進めていきます。

（３）児童生徒の結果から

高等部・中学部生徒へのアンケート調査の結果から、卒業後の進路や生活について否定的な回

答が多いことが分かりました。それ以外での学習や生活、友だちとの関係においては、概ね「できている」と感じていることが伺えました。肯定的な回答が70%以下の項目と、否定的な回答が高かった項目について分析をしました。

「2-1 校内や教室の掃除をしている」の否定的回答は16.4%となり、昨年度後期より否定的な回答が少し増えています。夏休み明けまでは、児童生徒による掃き掃除や拭き掃除を中止していたことが原因ではないかと考えます。夏休み明けより、マスクの着用や換気に配慮しながら少しずつ取り組んでいますが、感染予防には十分気を付けて行う必要があると考えています。

「5-1 卒業後の進路や生活について学習にとりくんだ」「5-2 卒業後の進路や生活について、いろいろな人からアドバイスを聞くことがあった」の2項目についても、いずれも「わからない」の回答が20.4%ありました。6月から学校が再開し、進路についての意識を持つことがなかなか難しかったと言えます。しかし、卒業後の進路や生活は、日々の学習の積み重ねでもあるため、進路担当だけでなく、全教職員がそれぞれの立場で、児童生徒一人一人を尊重し指導支援をしていくことが大切であると言えます。進路に関する情報は、懇談や説明会、おたよりや本校ホームページ等を通して、これからも引き続き発信していくことが大切であると考えています。

「6-1 交流や地域での学習」については、「わからない」の回答が多かった項目です。コロナ禍で学習ができなかった結果ではないかと考えます。

「7-1 校期間中も学習に取り組むことができた」については、否定的回答は16.4%で高い結果となりました。家庭学習については、保護者アンケートの結果も踏まえて、今後の改善課題であると受け止めています。日々の学習が家庭でも行えるよう、家庭学習に繋がる教材・教具の作成や方法等を検討していきます。

4 まとめ

コロナ禍で始まった前期は、様々な対策を講じながら学習を進めてきました。今回の学校評価アンケートの結果、学校経営の重点の各項目について概ね達成できていると考えられますが、昨年度の結果と比べると、否定的回答が10%を超える項目が増えました。課題となっている項目については、それぞれ考察で述べていますが、教職員の肯定的回答が高い項目でも、保護者の肯定的な回答が低い項目が見られました。これは、取り組んでいる学習内容や児童生徒の姿が保護者に十分伝えることが難しかったのが原因ではないかと考えています。コロナ禍のために、参観日や送迎時、また、ケース会や懇談会等で、保護者へ児童生徒の様子を伝えることが難しかったといえます。参観日にいただきましたアンケートからは、「授業がおもしろかった。」や「役割を持って活動し、いろいろ工夫されていたのを感じた。」等、授業や児童生徒の姿を捉えた肯定的な感想をいただいています。今後は、日々の連絡帳や学校・学年だより、学校ホームページ等で、児童生徒の様子を発信していきたいと考えています。

アンケート結果から出てきた課題については教職員で情報共有を図りながら、学校運営協議会とも連携・協力して課題の解決・改善に向けた取組を進めてまいります。

<学校運営協議会でのご意見>

- ・地域連携は、コロナの関係で中止となることばかりであったが、人と関わるができなくても、地域に貢献できる活動をこれからも計画し、取り組んでいくことが大切。
- ・地域での活動を伝え、地域の理解を深められるように、発信することが大事。
- ・コロナ禍で子ども達をはじめ、保護者も教職員も負担が大きい。これまで以上に健康管理について注意喚起をしていく必要がある。
- ・これまでに体験したことのない状態に置かれ、保護者の方々の戸惑いは大きかったと思う。刻々と変化する状況の中、児童生徒の皆さんや保護者の方々が孤独にならないようにしていくことが大事。
- ・こんな時こそ、家庭と学校との密な連携と協力が絶対に欠かせない。